

# 平成26年1月21日「あきた海外展開支援ネットワーク」設立

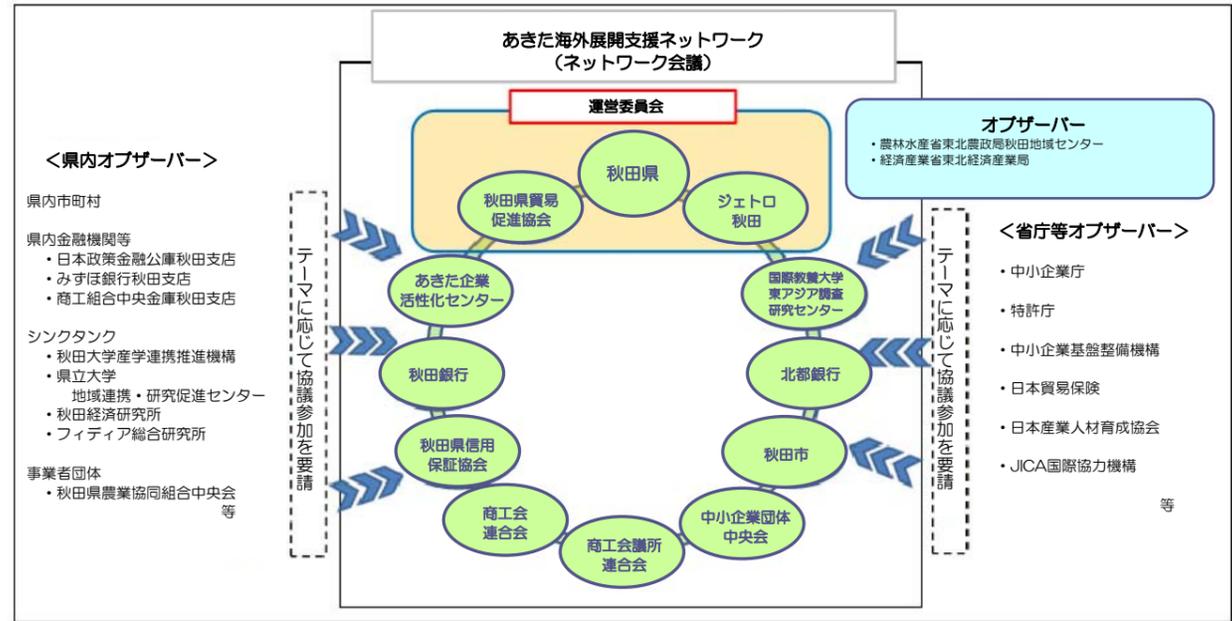


あきた海外展開支援ネットワークは、秋田県、秋田県貿易促進協会、ジェトロ秋田を運営委員とし、県内の金融機関や商工団体、大学など計12団体で構成されており、人口減少の進行による国内需要低迷が懸念される中、海外に活路を見出そうとする県内企業を強力に支援していくために設立されました。

設立総会で佐竹知事は「交通機関や情報通信網の進歩によって経済のグローバル化が進み、ビジネスの範囲が広がっている。個々の企業が発展することによって

結果的に秋田へ恩恵がくる。積極的に企業をサポートしていきたい。」と挨拶されました。県商工会議所連合会の三浦会長は「ネットワークの設立は、我々民間企業としても必要なものと感じている。これを機会に、個々が持っている情報を一本化し、民間企業がワンストップで海外展開の支援を受けられるようになればいい。」と述べました。また、当協会の齊藤会長は「各企業へきめ細かに支援いただけるものと期待しており、貿易拡大のため、協会としても各事業を展開し、関係機関の皆さんとのネットワークを強化したい。」と述べました。

結果的に秋田へ恩恵がくる。積極的に企業をサポートしていきたい。」と挨拶されました。県商工会議所連合会の三浦会長は「ネットワークの設立は、我々民間企業としても必要なものと感じている。これを機会に、個々が持っている情報を一本化し、民間企業がワンストップで海外展開の支援を受けられるようになればいい。」と述べました。また、当協会の齊藤会長は「各企業へきめ細かに支援いただけるものと期待しており、貿易拡大のため、協会としても各事業を展開し、関係機関の皆さんとのネットワークを強化したい。」と述べました。



## ロシア語講座受講生募集!

今年も当協会専門アドバイザーであるネザムトデノフ・ヴィクトル氏を迎え、ロシア語講座を開講します。全く初めての方でも、ヴィクトル氏が熱心に教えてください。ロシアや、ロシア語にご興味のある方はぜひご参加ください。

- ☆初級：平成26年4月10日（木）～9月上旬予定（全20回）
- ☆中級：平成26年4月11日（金）～9月上旬予定（全20回）

- 時間  
初級：16：30～18：00（90分）  
中級：16：00～17：30（90分）
- 受講料 17,000円（教材費込み）  
当協会の会員の方は無料です。
- 場所：秋田市旭北地区（詳細は開講前にお知らせします。）
- お申込み締切  
平成26年4月9日（水）

- お申込み・お問合せ  
一般社団法人  
秋田県貿易促進協会  
TEL: 018-896-7366 担当：高橋



一般社団法人  
**秋田県貿易促進協会**

秋田市旭北錦町1番47号  
秋田県商工会館5階  
電話：018(896)7366  
FAX：018(896)7367  
Email：info@a-trade.or.jp

協会のホームページも  
ぜひご覧ください↓  
<http://www.a-trade.or.jp/>

あなたの貿易ビジネスをサポート!

**ATPA**  
一般社団法人  
**秋田県貿易促進協会**

# ATPA

第28号  
(H25年度 第4号)  
発行日 2014. 4



一般社団法人  
**秋田県貿易促進協会**  
Akita Trade Promotion Association



## NEWS LETTER

# 正副会長会議、企画委員会、理事会開催

### 第3・4回正副会長会議開催

平成25年12月25日に第3回正副会長会議を開催しました。当日の協議事項は、秋田県が実施する①「あきた海外展開支援ネットワーク事業」②「県内企業海外取引推進事業（緊急雇用創出）」の二つの案件について協議しました。また、報告事項として平成25年度の事業実施状況について事務局より報告しました。さらに平成26年1月27日には、第4回正副会長会議を開催し、来年度の県の補助事業の動向について説明しました。また、当協会への関係機関からの派遣職員について、派遣元との協議について状況の説明をしました。

### 企画委員会開催

平成26年2月24日に企画委員会を商工会館5階会議室において開催し

ました。当日は委員12名の出席のもと、平成26年度の事業活動方針の概要について活発な意見が交わされ、大変有意義な意見交換ができました。承認されました事業活動方針については、3月17日に開催されます理事会においてさらに協議されることになりました。

### 第2回理事会開催

平成26年3月17日に商工会館ホール80において平成25年度第2回理事会を開催し、2月に企画委員会で協議された平成26年度の事業計画・予算について審議しました。なお、国への陳情時期については、関係機関と連携しながら効果的な実施時期を検討することとしました。

### 目次:

- 第3・4回正副会長会議、企画委員会、第2回理事会開催・平成26年度事業計画(案)概要 1
- 台湾微風広場で県産農産物等をPR  
-シンガポールであきたこまちのプロモーションを実施 2
- 秋田県人企業家から見た対中国ビジネスの環境～対中ビジネスにおける“走出去”と“引進來”～ 3
- 「あきた海外展開支援ネットワーク」設立  
-ロシア語講座受講生募集! 4

### ●平成26年度事業計画(案)概要

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1 組織・財政・運営の強化	第1回正副会長会議	第2回正副会長会議	定時総会				第3回正副会長会議		第4回正副会長会議		第5回正副会長会議	
2 貿易基盤強化の意見要望	意見要望活動	秋田港港湾整備の要望 国土交通省への要望										
3 貿易相談・貿易普及啓発の促進			貿易実務講座 (基礎編・応用編)									
4 貿易取引拡大促進事業	商談会、フェア等				中国東北部商談会	台湾商談会	シンガポール商談会	タイ・バンコク りんごフェア	バンコク 伊勢丹フェア			
					タイバイヤー 招聘・商談会	韓国輸入業 協会との 経済交流支援	マレーシア バイヤー商談会	マレーシア 経済ミッション 派遣事業		シンガポール 伊勢丹フェア		
						シンガポール バイヤー商談会	ロシア バイヤー商談会	マレーシア 経済ミッション 派遣事業				
								延辺・極東 ロシア経済交流 支援				

## 台湾「微風広場」で県産農産物等をPR

1月31日～2月9日の10日間、台北市の百貨店『微風広場』で秋田フェアが開催されました。微風広場は、ブランド店、有名レストラン、映画館も揃った大型高級ショッピングセンターで、平成21年度から毎年、秋田県産品等の販促活動を行っております。今年度も、県産米やリンゴに加え、きりたんぼや稲庭うどん、味噌醤油などの加工食品の試食販売を実施し、台湾の消費者に対し秋田の食とその文化をPRして参りました。

協会会員からは、大畑ファーム、佐藤養助商店、浅利佐助商店が参加し、県産物を売込みました。春節で賑わう会場には、コンスタントに買い物客が訪れ、大いに盛り上がりました。きりたんぼ鍋は既に秋田の名物として認知度が上がっており、大変人気がありました。また、稲庭うどんの試食コーナーでは、稲庭養助台北店に行ったことがあるというお客も多く、徐々に台湾の方に浸透していることが感じられました。今回の試食販売では百年蔵味噌で作った豚汁が一番人で、試食した人の多くが美味しいと興味を持ち、秋田の食の良さを判ってもらうことで売上に繋がりました。また、米コーナーでは、あきたこまちの一口サイズのにぎりを作りなが



台湾「微風広場」

ら秋田米をPR・販売し、好評を博しました。

今後とも、秋田の定番商品として各商品の認知度を高め、販路拡大・輸出増加を目指して取り組んでまいります。

## シンガポールであきたこまちのプロモーションを実施

あきたこまちの試食販売  
樽見内営農組合(横手市)

フェアの様子

平成26年1月21日から2月6日（1月31日、2月1日は旧正月のため店舗休業）の間、伊勢丹シンガポールスコッツ店で開催されている「新春フェア」の一面であきたこまちのプロモーション活動を行ないました。プロモーションの内容としましては、店頭で実際にご飯を試食していただくとともに購入者特典としてあきたこまちの300g袋をプレゼントすることで販売を促進し、シンガポールにおけるあきたこまちの知名度向上を目指しました。

伊勢丹シンガポールの客層は、日本資本のスーパーということもあり、他のスーパー等に比べ日本人の率は若干高めですが、ほとんどは中国系シンガポール人（華人）です。フェアは旧正月の真っ只中ではありましたが、日本食ブームの流れもあってか、お米をはじめ日本食材を目当ての来店

が多く、大変にぎわいました。

シンガポールでの日本産の食品売り込み競争は年々激化しておりますが、お米は特にそれが顕著にあらわれており、お米コーナーには日本各地のブランドが並んでいます。伊勢丹シンガポールの担当者によると、現在は常に全国各地からお米のプロモーション開催の申し出があり、対応しきれずお断りすることもある状況だそうです。そのため今まで通りのプロモーションだけでは真新しさに欠けてしまい効果が薄れていくことが予想されます。現地消費者のニーズなどを今一度整理することで新たな戦略を検討し、お米だけに限らず秋田県産品の取引拡大に寄与する効果的な活動を今後も実施してまいります。

購入者に配布した  
あきたこまち(300g)日本中のブランドが並ぶお米コーナー  
(伊勢丹シンガポール スコッツ店)秋田県人企業家から見た対中国ビジネスの環境  
～対中ビジネスにおける“走出去”と“引進來”～

北京中秋共創商貿有限公司 代表 鈴木さなえ

秋田銀行、中国信託ホールディングス、ジェトロ秋田 主催  
「台湾・中国ビジネスセミナー」より

平成26年2月18日に秋田市にぎわい交流館AUにおいて秋田銀行、中国信託ホールディングス、ジェトロ秋田により開催された「台湾・中国ビジネスセミナー」の中で、当協会が「海外企業 マッチング支援事業」の拠点のひとつとして業務委託しております北京中秋共創商貿有限公司の鈴木さなえ代表がご講演されました。以下はその時の講演内容を要約したものです。



鈴木代表の講演

北京中秋共創商貿有限公司は秋田ならではの県産品の販売、特色ある観光資源の紹介を通じて、中国・秋田間の経済及び人的交流を促進し、中国における「日本国秋田県」の知名度アップを図ることを目的として2008年6月に北京で設立しました。近年の対中ビジネスは、中国が巨大成長市場であるが故に労働者の賃金上昇や経済成長の鈍化への不安、大気汚染などの公害問題、食の安全に係るリスク、政治リスク、反日リスクなどのいわゆる“チャイナリスク”を抱えています。しかし、それらのリスクを踏まえたとしても中国が巨大な市場であることに変わりなく、対中ビジネスの重要性は今後も揺るぎないでしょう。

中国では1978年12月、鄧小平氏を中心とする指導者グループによって「改革開放政策」が打ち出されました。その戦略における重要な内容として“走出去（対外投資拡大）”、“引進來（外資の積極的導入）”という言葉が使われました。

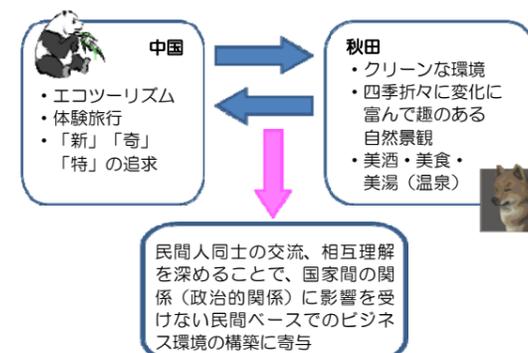
対中ビジネスにおける秋田にとっての“走出去”“引進來”を考えた場合、“走出去”は輸出と投資です。中国への輸出で問題になるのは輸入関連税が高いことです。例えば日本酒の場合、CIF価格に対して関税が40%、そこにさらに増値税17%が加わり、消費税10%が加算されます。また検疫にも時間がかかるため賞味期限

のある食品などの場合はさらに注意が必要です。資金や技術、サービスを投入し中国国内で製造・販売した場合は純輸入品に比べ価格面で優位に立つことができますが、より多くの財力、物力、人力を必要とします。

“引進來”としてはインバウンド事業が考えられます。秋田の自然や伝統行事、美酒、美食を積極的にアピールし中国からの観光客を誘致することで、観光需要の補完や外貨の獲得に繋がります。さらに民間同士での交流・相互理解が深まることは両国の政治的関係に影響を受けない民間ベースのビジネス環境構築に寄与します。課題となるのはビザの問題、“銀聯カード”加盟店が少ないこと、公共の無料無線LAN環境整備、そして実際に旅行に来てもらうための宣伝・情報発信が不足していることです。

いずれにせよ中国ビジネスを考えるには、まずは一度、自ら中国を訪れてみてください。

「百聞不如一見 百見不如一動」



&lt;鈴木 さなえ 氏&gt;

秋田県能代市出身。平成7年より北京に在住。フリーの通訳翻訳業を経て平成20年6月「北京中秋共創商貿有限公司」設立。翌21年5月には秋田から日本酒を輸入開始。当協会では提携して平成21・22・23年の3年間、北京市で日本酒の試飲会を開催。平成23年には「海外企業マッチング支援事業」に関する業務提携契約を締結。

ちゅうしゅうクリエイト

&lt;北京中秋共創商貿有限公司: Beijing Zhongqiu Create Commercial &amp; Trading Co.,Ltd&gt;

所在地: 北京市、業務: 貿易業、物販業、ビジネス関連コンサルタント及びサービス業